



青山学院大学「古美術研究会」創立60周年記念講演会



仏像の輝きと その表現方法をめぐって

講師：津田徹英

青山学院大学文学部比較芸術学科教授

西蕃の獻れる

にしのとりのくにのたてまつれる

佛の相貌端厳し

ほとけのかほきらざらし

2025年

9月23日(火・祝)

13時～14時半

青山学院大学

大学同窓祭

齋会ブース

17号館4階

聴講無料

現役学生・一般の方も
大歓迎です。

〔問合せ〕 齋会事務局メール：
ishidatamikai@gmail.com
又は 齋会ホームページ：
https://ishidatamikai.
jimdo.com/お問合せページを
ご利用ください。



「輝き」は、古今東西の隔てなく聖なるものを荘厳(しょうごん:仏像や仏堂を美しく飾ること)するのに相応しい表現手段と考えられてきました。ただし、わが国の仏像に特化してこれを眺めてみると、必ずしも金色表現に限定されるものではないようです。今回の講演では、わが国の仏像の表面仕上げをめぐるいくつかの事例を取り上げながら、それぞれの表現のありようを眺める、という内容です。



【講師略歴】
つだ てつい 1963年生まれ。青山学院大学文学部比較芸術学科教授、国立文化財機構東京文化財研究所名誉研究員。博士(美学)。神奈川県立金沢文庫学芸員、東京文化財研究所文化財情報資料部長を経て2018年より現職。専門は日本彫刻史、密教図像学。著書に『平安密教彫刻論』『中世の童子形』『中世真宗の美術』など。